

住民として地方の政治を考えよう

福井県松岡中学校 坂本栄次郎

1 はじめに

「地方自治は民主主義の学校」とよく言われる。住民が直接請求を行ったり請願をしたり、あるいは自治体が適正に業務を行っているかを監視するオンブズマン制度が取り入れられたりしている。しかし実際には財政基盤が貧弱なため国からの交付金に頼っていて、財政が自主的に運営されなかったり、最近では住民の要望も多様化していて社会福祉、教育、環境整備、廃棄物の処理など仕事は増加するなど、多くの問題を抱えている。

今回、地方自治の学習で、より身近なものとして捉えさせるために地元である永平寺町を取り上げた。永平寺町は、財政基盤が弱く全体として活気かけるといわれている。

そこで、「自分たちの住む永平寺町は、どうしても将来住みたくなるような魅力的な町にすることができるか」という課題を設定し、生徒自身が町の将来像を模索していく授業を構成した。その中で財政などの地方自治の抱える問題点を考慮しながら、永平寺町の進むべき方向を探ることで、最終的には日本の地方自治が抱える問題点や方向性を考えさせる授業を実践した。

2 授業計画

生徒について

地方自治の単位にはいる前に以下のようなアンケートを全校生徒、全保護者、全祖父母に向けて行った。結果は、以下の通りである。

下のような結果になったが、生徒、保護者、祖父母との意見の違いが鮮明にわかる。生徒は都市

	生徒	保護者	祖父母
(1)将来永平寺町に住みたいですか。	はい A 93 (53.1%) いいえ B 82(46.8%)	はい A 122(73%) いいえ B 45(27%)	はい A 100(94.3%) いいえ B 6(5.6%)
Aの理由	美しい自然 29 住みやすい 25 故郷だから 27 都会は嫌い 5 その他	美しい自然 23 住みやすい 33 故郷だから 43 都会は嫌い 0 その他	美しい自然 26 住みやすい 20 故郷だから 46 都会は嫌い 0 その他
Bの住みたいところ	東京 24 福井 12 金沢 1 その他	東京 0 福井 20 金沢 0 その他	東京 0 福井 1 金沢 0 その他
Bの理由	住みやすい (買い物、交通) 22 住んでみたい 31 その他	住みやすい (買い物、交通) 26 住んでみたい 2 町民の考え方 9 その他	住みやすい (買い物、交通) 0 住んでみたい 0 その他 6
(2)永平寺町の良いイメージは	自然が豊か 80 有名なお寺 41 犯罪が少ない 28 その他 3	自然が豊か 71 有名なお寺 34 犯罪が少ない 8 人情味 9 その他	自然が豊か 44 有名なお寺 25 犯罪が少ない 9 人情味 3 その他
(3)永平寺町の悪いイメージは	お店が少ない 21 交通事故が多い 22 交通が不便 16 田舎である 34 その他	お店が少ない 8 交通事故が多い 14 交通が不便 21 田舎である 12 古いしきたり 17 町政について 13 その他	お店が少ない 5 交通事故が多い 6 交通が不便 8 田舎である 8 近所付き合い 5 町政について 3 その他
(4)どうしたら永平寺町が将来住みたくなるようになるだろうか。	自然保護 31 都市化 55 個性的な町 36 その他	自然保護 8 都市化 46 個性的な町 35 町政の工夫 18 福祉の充実 10 企業・大学誘致 5 その他	自然保護 3 都市化 25 個性的な町 17 働くところ 9 老人福祉 4 その他

部をめざす傾向が強くと、大人は永平寺町を愛しているようすがでている。

また、生徒は永平寺町のことを田舎っぽくていやだという意見が多いが、大人は永平寺町のことを否定的にみている人でも田舎という見方ではなく、古いしきたりであるとか干渉しすぎる近所づきあいとみている。

学習活動計画（全9時間）

その(1)導入・現状分析・課題設定（3時間）

過程	学習活動と予想される生徒の反応	学習内容	教師の支援	
課題の共有化	導入 0.5	アンケート結果より ○将来、永平寺町に住みたいかどうか またそれはなぜですか。 ・yes ふるさとだから 自然が豊かだから ・no 都会にあこがれて 田舎だから	○地元のことをどう思っているか (0.5h)	○事前調査の資料を用意する。 ・祖父母、父母、生徒それぞれの世代に対するアンケート
	現状分析 1.5	○永平寺町のよいところを考える。 ・全国的に有名な永平寺がある。 ・美しい川や山がある。 ○配布された資料を基に永平寺町の抱える問題点を考える。 ・観光客が減少している。 ・借金が多い。 ・基幹産業がない。 ・田舎でお店が少ない。 ・福祉面の充実 ・ ○アンケートの中身からも永平寺町に住みたくないと言う人が多い現状で、どうしたらいいだろうか。	○地元のプラス面を考える。 ○地元のマイナス面を考える。 ○学習課題を考える。	○プラス面を考えられるような資料を用意する。 ○事前アンケートの集計結果 ○観光客の推移の資料 ○機織業の減少の資料 ○福井市への就業状態を表す資料 ○人口流出の資料 ○一人暮らしの老人の数を示す資料 ○町の累積債務額を示す資料
課題設定 1h	<p style="text-align: center;">学習課題 永平寺町を将来住みたくなるような町にするにはどうしたらよいだろうか。</p> ○学習課題について予想を立てる。 ・福祉の面での町づくり ・環境をたいせつにした町づくり ・永平寺を中心にした観光の町づくり ・開発を進め都市化をめざした町づくり ○それぞれの考えをもとにグループに分かれる。	○学習課題の予想(1h) ○グループ分け(0.5h)	○ポストテスト 予想を立てた事例に対して優先順位をつける	

その(2)練り上げ・提言・創造（6時間）

過程	学習活動と予想される生徒の反応	学習内容	教師の支援
練り上げ	○資料をもとに自分なりの町づくりの方針を作成する。 ①福祉の面を強調した町づくり。 ②自然保護を中心にした町づくり。 ③観光都市をめざした町づくり。	○調査資料配付 ○発表準備 ・グループごとに調査活動役割分担 他のグループの発表原稿	○調査用の資料を配付する。 (全国のユニークな町づくりの事例を準備する) ・中核都市になった市の資料 ・仙台市の条例の資料 その他

さらに、『どうしたら将来永平寺町に住みたくなるか』という問いに対しては、大人の意見が「町政の工夫」や「福祉の充実」にも向いているのは、子どもの意見と明らかに違う。このことを生徒に資料として提示することで、生徒に新しい視点を与えることができた。

げ 4 h	④都市化を推進する町づくり。 ○永平寺町の将来像というテーマでグループごとに発表し、その発表を聞いてどの考え方がよいか、優先順位をつける。	の検討 ○永平寺町の将来像について話し合う。	○発表用の原稿を作る ○事前に発表用の資料を配付し質問事項を考えさせる ○ポストテスト2 ○理由づけをさせる
提言・創造 2 h	○「永平寺町を将来住みたくなるようにするには」というテーマで、町役場の財政企画担当の職員に意見を聞いていただいて、それぞれに回答をしてもらう。 ○町長の町の将来像についてのビデオを見る。 ○回答を聞いてさらに疑問に思ったことを質問する。 ○もう1度優先順位をつける。 ○最終的な永平寺町の振興計画を作成する。	○各班の意見の発表 ○行政当局の考え方 ○行政への意見書の作成	○グループの数にあわせて4人の職員の人に来ていただく。 町長のビデオ出演 生徒なりの将来に対するビジョンを策定してもらうように話してもらう。 ○ポストテスト3 理由づけをさせる

6. くらしいまちをめざして～まちづくりにチャレンジ～

STEP 4 タイムカードを！
 何枚かのグループになっているカードに、内容をひとまめに集めるタイムカードをつくり、ひとままりにします。STEP3とSTEP4をくりかえし、内容がよく似たカードのグループが全体でグループになるまでつづけます。このとき、カードが1枚だけ残ってもかまいません。

STEP 5 内容を整理して整理表に
 グループになったカードを、内容の関連性を見て、横並びの上に配列します。グループの位置が互いさまさまなら、すべてのカードが読みとれるようにグループごとにカードをならべ、はりつけます。

STEP 6 整理表がどの目で見られるか
 整理表上のカードをグループごとに（関連する）対立する（地区や結果）など、関連性が目で見られるように、表現を工夫します。それによって、テーマの全体構造がうかび上がってくるようにすることがポイントです。

STEP 7 表に発表を！
 各グループごとに表をまとめて、インターネットや学級などでさらに発表しましょう。

めざせ 1番

まとめ

1番

帝国書院『中学生の公民（最新版）』p.132～133

3 おわりに

永平寺町は平成7年に「永平寺町総合振興計画」を策定しているが、それらの計画と、生徒たちが考える永平寺町の将来像、また現実的問題として出てくる財政の問題、これらを総合的に考えることが、社会の仕組みとの共生につながるものと考えた。

永平寺町を愛するという観点に立って、永平寺町の将来の長期的展望を考える活動を多く取り入れた。また、表現力の育成という観点で、自分たちがまとめた将来像を町の担当者に提言として聞いてもらい、それに対して担当者としての意見をいただき、またそれに対して生徒が質問する学習展開を設定し、活発に意見交換ができるように指

導した。また、町の担当者に提言する資料作成には、他地域の魅力的な町づくりの実践例をあげながら説明できるように資料を用意して、資料活用の能力を指導した。このような活動を通して生徒の考え方は深まっていき、この段階を今回は「提言・創造」として授業の中に構成させた。

教科書の学習だけでなく、世の中の動きと連動させ、学習に現実味をもたせることが調査および提言・創造するなかで重要である。また話し合い活動のなかでは、他の生徒に自分の提言を理解してもらうために資料はたいせつである。しかも現在の状況を把握する上で新鮮かつわかりやすいものでなければならない。その点で新聞を中心としたマスコミによる情報を積極的に利用した。